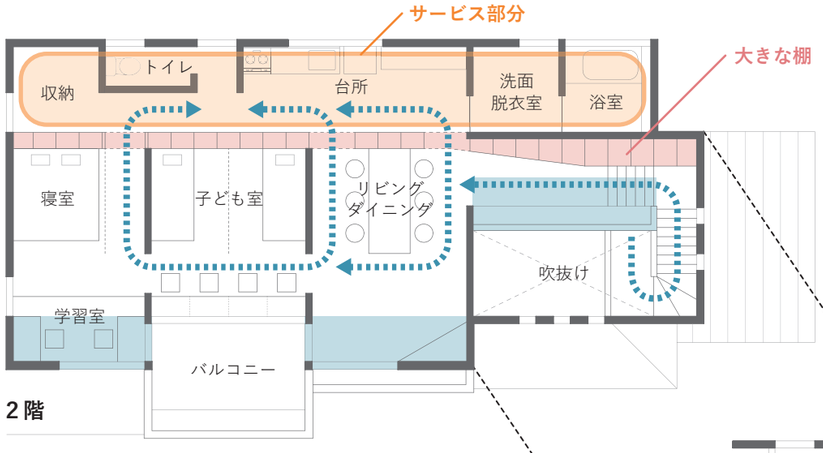
シェルフの森

一級建築士事務所
建築設計室わたなべ

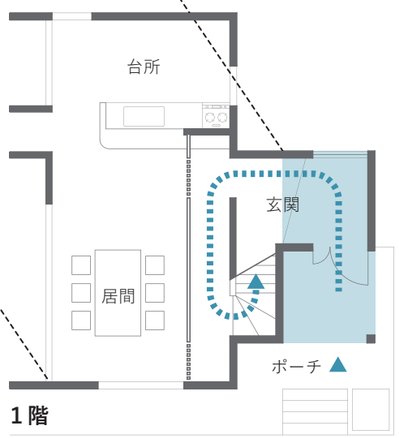
二階に、東西に長さ 15 メートルの大きな棚をつくります．この棚をつくる目的は大きく２つあります．

一つ目の目的は、不足している収納スペースの確保です．部屋によって棚の奥行を変え、収納物に適した大きさにします．例えば、更衣スペースでは洋服を掛けられるように奥行 70cm、リビングでは食器を収められるように奥行 40cm、子ども室では本を並べられるように奥行 30cm、という具合です．これから長い時間をかけて陳列、収納されるものによって、多様で楽しい、そして根本家にしかない室内風景をつくっていきます．

二つ目の目的は、家を緩やかに間仕切るためです．これまではリビングと水回りがひと続きで動線が混雑していました．くつろぎの場所であるリビングから、雑多な水回りへの視線を遮るだけでも、リビングの落ち着きはぐっと向上します．この棚には背板がありません．収納物がないところはその向こう側が見えるので家全体の一体感を損ないません．一般的な壁で仕切るよりも圧迫感を軽減できるので、室内を広々と感じることができます．



２階



１階

平面図　S=1/150

増築（増床）する部分

１階玄関、吹抜け、ベランダの一部に必要最小限の増築を行います．

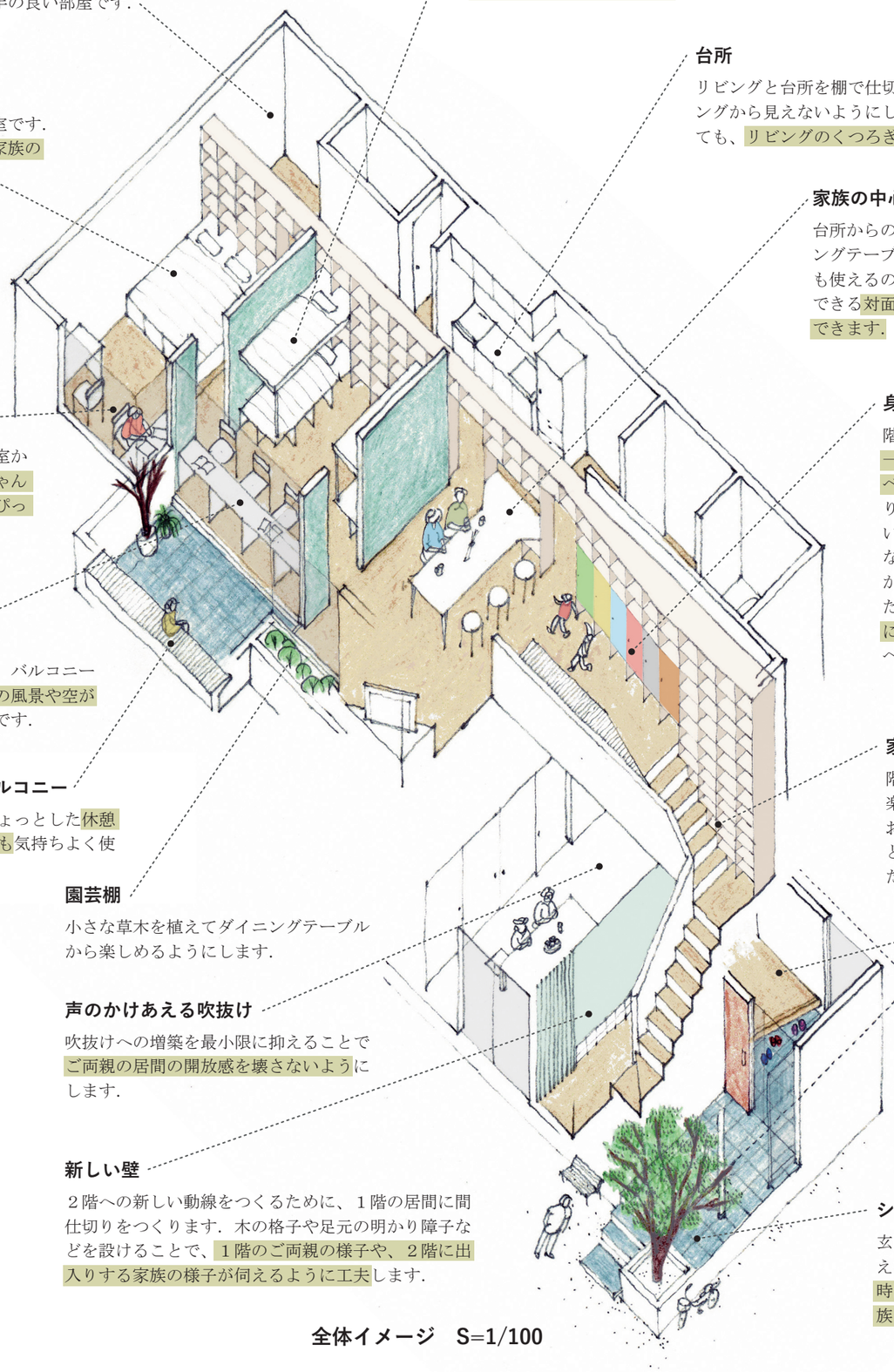
長さ 15m の大きな棚

サービス部分と居住部分のエリア分け

水回りや収納などのサービス部分と居住部分を分けて、動線を整理します．

家の中の回遊性が楽しさを生みます

家の中を一周できる動線をつくると、室内に奥行が生まれ広く感じることができます．ある場所に行くのに複数の経路があるのは生活していて楽しいものです．子どもたちものびのびとできます．



全体イメージ　S=1/100

一坪の収納

棚に収まらない大きな収納物が仕舞える使い勝手の良い部屋です．

完全に閉ざさない子ども室

子どもは閉ざされた部屋よりも家族のいるリビングや台所を好むものです．子ども室は２段ベッドを２つ設けて最小限のスペースにとどめます．子どもの成長に合わせて個室化することもできます．

静かな寝室

夫婦のための独立した寝室です．子供室へ動線もつくり、家族の様子も感じられます．

台所

リビングと台所を棚で仕切ることで、雑多な台所をリビングから見えないようにします．料理中で散らかっていても、リビングのくつろぎを邪魔しません．

家族の中心・ダイニングテーブル

台所からの仕出し口がある大きなダイニングテーブルです．台所側からの作業にも使えるので料理をしながら家族と対話できる対面キッチンのように使うことができます．

静かな学習室

２つの机を設けます．子ども室から独立させているのでお姉ちゃんの勉強など集中したい作業にぴったりです．

身じたくの更衣スペース

階段を１メートル広げて、一人一人の大容量の洋服ロッカーとベンチをつくります．家の出入り口に必要な収納物は、普段使いの衣服に加えてコートや帽子など、意外に多いものです．出かける時、帰ってきた時に身じたくを整えられますし、脱衣室にも近いので使い勝手が良いスペースです．

空が見える作業机

窓際に４人分の机を設けます．バルコニーで休む人と目があったり、外の風景や空が見える気持ちの良いスペースです．

家族のコレクション棚

階段は家族はもちろん、来客を楽しませる小さな美術館です．お気に入りの雑貨やおもちゃなどのコレクションを展示してください．

ベンチのあるバルコニー

ベンチを設けてちょっとした休憩やティータイムにも気持ちよく使えます．

園芸棚

小さな草木を植えてダイニングテーブルから楽しめるようにします．

２階のための新しい玄関

東側に玄関を増築して、２階のための新しい出入り口とします．ご両親に客人が来ていても、２階へ上がれます．

声のかけあえる吹抜け

吹抜けへの増築を最小限に抑えることでご両親の居間の開放感を壊さないようにします．

新しい壁

２階への新しい動線をつくるために、１階の居間に間仕切りをつくります．木の格子や足元の明かり障子などを設けることで、１階のご両親の様子や、２階に出入りする家族の様子が伺えるように工夫します．

シンボルツリーのあるポーチ

玄関先にはシンボルツリーを植えて良い雰囲気を演出します．時間とともに大きくなる樹が家族を見守ります．